

中部地区 竜爪山系コース案内 2 日目

コース 2 日目は幕営地の北沼上小学校を出発し、県道を北上する。則沢林道末端までは車道を歩くことになるため、交通には細心の注意を払い、早朝とはいえ事故等に合わないよう気をつけてほしい。長尾川を渡り、T 字路を左折し、竜爪街道を進む。左手に平山公園があり、隣の第 26 分団平山の建物の角を左折し、すぐに則沢橋を渡る。しばらく道沿いに進み公衆トイレがある則沢公園の先の分岐を右にとり、さらに進むと前方に 10m ほどの高さの堰堤が見えてくる。堰堤の右側を登る沢沿いの登山道があるが、大会のコースは、堰堤の手前のヘアピンカーブを行く。途中ヤブレガサの群生している場所もみられるが、落石には注意が必要である。この辺りはニホンカモシカの生息地で、時折舗装路上を歩いている姿を見かけることもある。全体的には勾配の急な登りであるが、やがてやや平らな広い地形となる。道白平である。右手にある御堂が道白堂である。16 世紀半ば数々の言い伝えを残している道白禪師が修行し、説法したところとされている。御堂のまえにはオオカメノキが枝葉を広げている。さらにしばらく進むと林道末端に達する。

林道末端からは、左手に橋を渡り登っていく登山道があるが、途中崩れやすい沢があるため、現在は真つすぐ登るコースをとる。沢の右側を登っていくと正面にかなりの急登が現れ、登り切ったところを左手にとると、文珠岳山頂への直登ルートとなる。ルート上はスギ・ヒノキの人工林であるが、ミツマタ・ミヤマシキミ・コアジサイ・ムサシアブミなどが自生している。寒さの厳しい早朝には、珍しいシモバシラが氷の花を咲かせているのも見られる。標高 850m 付近にやや緩やかなところがあるが、全体は急傾斜で一気に数百メートルの高度を稼ぐ。山頂近くの傾斜が緩んだところでは、ヒメシャラやアセビもみられる。藪を抜けると、竜爪山の一等三角点 (1040.84m) のある文珠岳山頂である。ここからは、西に賤機山の稜線から御前崎、東に清水港から伊豆半島、富士山、北に南アルプス南部の山々を望むことができる。

文珠岳山頂を過ぎ鞍部まで下り登り返すと双耳峰のもう一方薬師岳 (1051m) の山頂である。薬師岳への登りは、何本ものルートがついているが、一番右の尾根沿いにコースを進む。スギに囲まれて見通しのきかない山頂を過ぎてしばらく行き、分岐を右にとると穂積神社への下りとなる。長い年月の間に尾根がやせてきており、直登ルートは鉄の階段がついているが、大会コースは階段の右側のジグザグルートをとる。下りの傾斜が緩んでくると、太いスギの木が何本も聳えているところに社を構える、穂積神社である。約 1300 年前空海が修行の際に訪れたとの言い伝えもあるが、江戸期までは神仏集合の竜爪権現として、また明治以降は神道の穂積神社として多くの人々の参拝の対象となってきた。とくに、弓・弾除けの神様として明治から太平洋戦争の時期にかけ、多くの人々が詣でたとのことである。平山から登ってくるルートには鳥居と石の道標の設けられた参道 (旧道) がつけられている。神社付近にはシャガ・ドクダミ・マムシグサなどが多く自生している。

この穂積神社が計時・読図審査のゴールである。ただし、ここから、旧道をとおり、茶畑を三本桜、平山へと下り、松尾橋を渡って北沼上小学校の最終ゴールに到達するまでが第 2 日目のコースなので、転倒や交通に気を付け、無事故で規制時間内に到着するようにチームで行動してほしい。